

プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版

坂井建雄, 松村譲児 監訳

Vesalius の『人体構造論 (ファブリカ)』(1543) は、それを境として医学史が二つに分けられるほどの偉大な図書といわれる。自分の眼で確かめた所見に基づく詳細な記載はもとより素晴らしいが、芸術的価値も高い約 300 の見事な図版が含まれていなかったら、それほど喧伝されることもなかったのではなかろうか。これ以後、正確で美しい解剖アトラスを提供することが、解剖学者の重要な役目となったのである。その極致として、木版画では Toldt の『人体解剖学アトラス』(初版 1897-1900)、そして近代的なカラー印刷図譜では Pernkopf の『臨床局所解剖学アトラス』(初版 1963-/日本語版医学書院、『人体局所解剖学』全 4 巻 7 分冊 [1937-1960] から図版を抜粋して編集) を挙げることができよう。この 2 点は共に、ウィーン大学解剖学教授の企画・指導により、ドイツで印刷された作物である。解剖学アトラスに関する限り、ドイツ語圏への信頼はゆるぎないものであった。しかし、1914 年、第一次世界大戦が勃発してドイツから多数の米国留学生が帰国の途についたことと呼応して、ドイツ医学の衰退がはじまったと解釈することもできよう。Toldt はドイツ解剖学の爛熟の極点、Pernkopf は偉大なる残光とでもいえようか。ともかく 20 世紀前半の 30 年余の間に、2 度の世界大戦により継続性が断たれたことが大きい。世紀後半は、過去の遺産の図版を、手を変え品を変えて新企画のなかに巧みに取り入れて糊塗してきたという感が強く、歯がゆい時期がだいたい続いた。そこへ、このアトラスの発刊である。ドイツ解剖学のアトラス製作の伝統が連綿として生き続けて、突如として大輪として復活したことを心から喜ぶたい。

それにしても“プロメテウス”とは、穏やかでない。この神話名から派生して「先に考える男」という意味があると聞く。ここで思い出すのは、ドイツ解剖学が前世紀はじめに機能解剖学をいち早くとり入れ、Blaus (初版 1924) や Benninghoff (初版 1939) が魅力的でいささか理屈っぽい教科書を制作してきたことである。これらはまさに当時の先駆けであった。今度の先駆けはどんな意義を持つのだろう、書名が単なる Atlas der Anatomie (解剖学アトラス) ではなく、Lernatlas (学習アトラス) とうたっているところに表されていると思う。上述の Pernkopf の大著には副題として『局所層序的剖出アトラス』とあり、実際に一層ずつ丹念に

剖出を繰り返し忠実に描写した記録の集成である。このような場合、その特定の解剖体の所見に依拠する程度が高くなるから、必ずしも標準的とは称しがたいこともありうる。“プロメテウス”の図版は伝統に立脚しながらも近年のコンピュータ支援の成果も巧みにとり入れ、典型的・標準的かつ割り切りのいい美しい図版に仕上げられており、学生にとっても理解しやすいのではないか。

もう 1 つの特徴は、臨床的関連事項を気の利いた模型図で表し、図版の周囲にサテライトよろしく配置させて、臨床に役立つ解剖学に仕立てたことであろう。これにより、Anson, Hollinshead, Moore 等、米国の臨床解剖学書にくらべて影の薄かった状況が一挙に挽回されたと見ることができよう。ただし、「臨床に役立つ」は危なっかしい一面も持っていることに留意したい。改訂を重ねるたびに、臨床とテクノロジーの進歩を取り入れるサービス精神が豊かすぎて、大本の美しい解剖図版とのバランスが崩れがちな例に間々遭遇するものである。今回の改訂は解剖と応用面との兼ね合いが絶妙で上品な仕上がりである。今後のさらなる改訂では、あまり先駆け倒れてほしくない。

研究者・教師サイドからこのような大部の図書に求めるのは、いつでもある程度の緊張感を持ちながら戻ってくることのできる母艦の基本図書ではあるまいか。先述の Toldt にしろ Pernkopf にしろ、時間的余裕があれば、随時われわれはひもとき眺めこんでは疑問点・問題点を探していた。つまり、これらの労作は研究のヒントの宝庫でもあった。その役割を今後は本書が担ってくれると期待している。

三人の著者のファミリーネームのイニシャルはいずれも S である (Schünke, Schulte, Schumacher)。そのように、本書は、美しく (schön)、力強く (stark)、信頼に足る (sicher) 標準的解剖学書に仕上がっている。この本を絶えず参照し、学びとっていきたいと考えている。

東京有明医療大学長/東京医歯大名教授
佐藤達夫

A4 変 頁 616 2011 年

定価 12,600 円 (本体 12,000 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-01068-9] 医学書院刊